

おじいちゃん

いんないじいちゃん

絶賛
発売中



青い空

NEW !!

VICL-35075
90分 25日発売
¥1200 発売中

ファンデリア



BN-103
¥2000 発売中

東京



VICL-35032
¥1200 発売中

虹



VICL-35045
¥1200 発売中

さよならストレンジャー



VICL-60365
¥3045 発売中

● 編集：株式会社ついでにニュース 東京都渋谷区恵比寿4-1-432 EDIH 恵比寿5F TEL 03-3468-8110 FAX 03-3468-8115 担当：藤井寿博 レイアウト：J&M シズメ (Bad News)
● 発行：ビクター・エンタテインメント株式会社 東京都渋谷区神宮前4-28-18 TEL 03-5746-5705 FAX 03-5746-6631 スチール・カメラ：レコード(制作) 高橋太郎 (宣伝) 石田悠

岸田語録
カセット持って
お店回りますよ

夏のイベントライブを前に、11月発売予定のシングルのレコーディングと『青い空』のプロモーションと超多忙な毎日を通す岸田君から出た言葉、『青い空』が旅群のデキだけにぜひとも売りたいとの一心から出てきた超前向きな言葉かとスタッフ一同感激していたのだが、実は卒業をかけた試験で京都へ帰らなければならないので、その旅費を浮かせたかったがために出てきた言葉だったという(笑)来屋落ちでした。



Vol.5

OKAY新聞

岸田



目差せ山崎隆三～孤高の2番打者をめざして 99年夏～

ダイエーがまさかの首位を独走し、阪神が中日と熾烈な首位争い。世紀末な展開を予感させたプロ野球もオールスターを開けてみると、ダイエーも首位とは言えども西武とオリックスにジリジリとその差を詰め寄せられ、お約束通り阪神は連敗に連敗を重ね最下位と肩を並べている状況。その最下位はというと岸田君のごひいきチーム広島だったりもするのだが……。それでも野球は熱い。巨人上原の頑張りや西武の松坂フィーバーも手伝って、阪神が最下位になろうともこの盛り上がりは止まらない。そんな盛り上がりに触発されてか、大塚にあるバッティングセンターでバットを振る岸田君をつかまえた。

最初に岸田君の入った打席の球速は130Km。もちろんプロで言えば決して速い球とは言えないが、なかなかこれほどのスピードを出す草野球投手もなかなかないだろう。しかもその球速を低めにビシビシと決めてくるのだから、なかなか手強い相手だ。岸田君は笑の定め、最初の打席はほとんどヒット性の当たりは出す。空振りばかり、球に当たったと思ってもあからさまにファールとわかる当たり。空振り空振りファール空振りチップ。かなり振り遅れている。フェアグラウンドに飛んだ当たりもファーストゴロ、ショートゴロにしか見えない。これではいけないと思ったのか、今度はバットを短いものに持ち換えてはみるが、空振り、続いてファール。やはりヒット性の当たりは出す。また空振り。しかしチップ、ファールとタイミングは徐々に合いつつある。空振りを入てつつも徐々にタイミングが合ってくる感触を得たかと思ったところに自打球……。

自打球にもかまわず、再び打席に入る。今度は当てるバッティングを心がける岸田君。ファール、ファーストゴロ。確実にバットには当てるものの体力がすでにバテバテ。だいたいがタイミングがつかめなかったかと思うと、ちょっと振り遅れ、前に打球が飛ぶようになったかと思うといきなりエネルギーが切れてしまい、空振り空振り空振り。で、また快音が聞かれなくなってしまう。

そこでちょっと休憩を積み、再び岸田君はバッテリーボックスへ。空振り空振り。変化しているわけではないが低めのいいところに連球が次々と決まってくる。岸田君は眼鏡に指を当てて球種を凝らす。すでに4打席目を迎えたにもかかわらず、今だにヒット性の当たり出ないことへの焦りが感じられる。しかし無常にもバットは空を切る。空振り。低め低めに来たかと思うと今度はいきなり高めへ配球してくる。嫌なタイプのバッティングマシンだ。しかも投げたテンポが微妙に悪く、なかなかタイミングが取り辛い。しかし、そんなバッティングマシンの配球を読んだのか岸田君、高めの球をシャープにピッチャー返し。そのヒット性の当たり1本を除けば、今回もバッティングマシンにしてやられた感には強かっていたが、岸田君の振り自体は次第に鋭くなってきていて、次の打席を期待させるものがある。ただ気掛かりなのは、再び当たった自打球(笑)の後連球くらいか。

食事休憩で一時、バッティングセンターを離れる。その際に「まだ、起きたてやし(笑)」と半ば言い訳とも取れる言葉(笑)で前置きしながら今日前半のバッティングの組み立てを語ってくれた。「最初にやったのは3番用。それから2番用に変えて、全然(球が前に)飛ばへんし、一番最後に代打用を(笑)。高橋型やって、その次に土橋型やって。その次に金森型のバッティングに変えたところ」

●今日の感想を聞きたいんだけど、なんか右よりも左打席の方が調子よかったな。
岸田:右は力入りすぎんやわ。それで振り遅れてんやわ。左は空振りせいへんかったら割と芯に当たってるのは当たってるからなあ。
●いい感じで返りよからなあ。
岸田:オレ、左打者やわ。
●はははは、右で力をセーブすればいいんとちゃうかって話もあるけどな。
岸田:もともとスイッチヒッター志望やったからな(笑)。でも、左でバッティングセンターで打ったんで今回で2回目やで。

●そうなんや。素振りとかはやってたん？
岸田:あんまり。ルーティン中とか(笑)プラスチックバットで。もあれくらいスピードで振れたらしいのにね。
●それやったら芯に当てられなくなるんちゃう？
岸田:そこかもしれないね。だから木のバットの方が絶対いいわ。金属バットはどうも苦手や。
●やっぱプロを目指すとなるとな(笑)。
岸田:そうそうそう。木のバットやないと。折れるぐらいいやないし。
●どう終わった感想は？
岸田:いやあ、2時間もやるもんやないわ(笑)。

●手の皮ができてへんもんね。
岸田:そうそうそう。手が垢だらけや(笑)。
●それだけやる分の体力もなしに。
岸田:そうそうそう。でもね、オレは左バッテリーやっていうことがわかった。たぶん、オレ置れば左でやっていける。
●マジで結構いけそう。まだ2回目やのにあれだけ打てればね。
岸田:アマチュアでなかなかあれくらい球を放るやつはおれへんから、打てるでしょ、もっと。オレはスイッチヒッターとしての素質は十分や。で、空振りはオレたぶん少ない。
●チップは結構してたな。最初はでも結構空振りしてたで。

再びバッティングセンターに戻ると今度は別の打席に立った。やはりさっきの球は速すぎたのだろうか。115kmで左打席。「全然アカン。スイッチヒッターやのに(笑)」という声も聞こえてくるが、さっきよりもやはり全然当たっている。もちろん空振りも球が全然余裕が違ふ。足でタイミングをとったり、長仕打ちを決めたり。ピッチャー返しも問題なく、確実に前に飛ばしている。スイッチヒッターも夢じゃないかもしれない。ちなみに今のバッティングは7番用とのこと。

続いて打席を替えると、今度は右打席でバスターの練習。普通にバッティングをしたかと思えば今度は左打席にスイッチ。左で打つようになってから空振りも減ってきている。ボールが見えてきたのだろうか。ヒット性の当たりもチラホラ。3番用のバッティングを再び登場している。

「オレは長打の打てるではないので、基本的にセンター返しを狙っていったらいいけど、右打席に立つとたぶん悪い癖があるんですよ。センター返しをしようと思ってちょっとバットを高く構え過ぎて、ちょっと振り遅れるところがあるんですよ。高橋打法(笑)なんですよ。それで右上の力であれればうまく飛ばせるんですよけど、オレこっち側ないから、逆にオレ左の方があると思うんですよ。だからしょうようにはなかなか飛ばへん。ショートゴロ、サードゴロが多くなる」

右打席に関してはそんな自己反省をこめつつ、分析している。ただ本来なら得意で打ちはずな打席が確実に球を捕えていることに関しては「とりあえずミートミート(笑)」を心がけているからだという。「ホームラン打とうとは思ってないで(笑)」。

再び最初の130kmのところに戻ると、まずは右バッテリーボックスから。空振りもあるが当たっていている。ちょっと腰が引ける。前のりというか振る時に後2側に反った形で肘がちょっと伸び切らないとどこで長打が狙えない感じもするが、3球に1球は前に飛ばしている。しばらくすると打席を変更。体力の問題でシャープさが高くなってきているがいい感じに球を弾き返している。センター前ヒットかと思う当たりも飛び出してくる。が、岸田君、君、自打球多いよ(笑)。

今度はバットにチャレンジ。バッティングセンターで何やってんねんって感じもするのだが、コレが意外に難しい。なかなか成功しない。痺れを切らしたバッティングに変えたし、見返したり(?)。色々試みるもうまくはいかない。ということで再びバッティングへ。そこでハブニング。自分のバットで自分の足を打ってしまったようだ。痛い痛い」と岸田君。しかし自打球の多さといひ自分に乱暴な野球をするな。そんな負債をこらえて見事な流し打ちを披露し、今日のメニューは幕を閉じたのだった。

岸田:最初は慣れてへんもん。後は足の速さを活かすだけ。
●自分、足速いの？
岸田:速いよ。オレ、すごい速いよ。50m最盛期は6秒6やもん。100m12秒9。で、とりあえず2割8分は目指したいなあ。
●今はちょっと厳しそうやな(笑)。
岸田:うーん、11秒で2割3分やな。でもピッチャー心理を読みながらいけるから。
●今、オレの読みでは1割5分くらいやと思うねんけど(笑)。
まあ、相手にもよるけどな。
岸田:こんな球放られたらそらもう完封されるわ(笑)。



くるりの「お店の人とこんにちは」

今回は始めて洋楽担当の方とこんにちわ。HMV池袋店の瀬上健さんです。『青い空』についてのトークのつもりが洋楽の話に早変わり。アレがよかったコレがよかった、そんな話ほんの一部をお届けします。

岸田:今回のシングルはオレン中ではピクシーズ・ミーツ・パッドレリジョン+レディオヘッドって感じなんですけど。

瀬上:ピクシーズとか好きですか?

岸田:そんなすこし聴いてたわけではないんですけど、ピクシーズはオレは『ボサノヴァ』とベスト盤みたいなものしか持ってなくて。でもああいいう感じで結構好きなんです。でも、ピクシーズの人がやめてからやっているバンドあるでしょ。

瀬上:フランク・ブラック。

岸田:あれは大嫌い(笑)。

瀬上:姉ちゃんのやっているバンドはよかったですよ、ブリーダーズ。

岸田:ええ。オレ、洋楽担当の人に会う度

に聞いているんですけど、アメリカのシンガーソングライターでウィリー・ウィッセルリーって知ってます?

瀬上:知ってる知ってる。

岸田:あれ、ムチャムチャやうないですか?

瀬上:2枚目メチャクチャよかった。

岸田:オレは1枚目の方が好きなんですけど。

瀬上:最後の方に入ってる曲がめちゃくちゃ好きなんです。

岸田:チャランチャランチャーン、ダカダーン。

瀬上:ちょっと違うかな(笑)。でも、あれはウチの

店では結構売れたんですよ。

岸田:あれはもっと押ししましょうよ。オレ、ウィリー・ウィッセルリー御存知の方って会ったん初めてですよ(笑)。詳しくそんな音楽ライターの人とかにも聞くんですけど、みんな知らなくて。でも、あれは聴くべきですよ。

瀬上:あれ全部自分で演奏やってるんですか?

岸田:いや、なんかバックのミュージシャンはいるみたいなんですけど、ジャケ見てたらプロデュース・バイ・ウィリー・ウィッセルリー&ジョン・ストロベリー・フィールズっていう(笑)。非常にうさん臭い名前が出てきて。でも、なんであれが売れへんのかなあ。

瀬上:でも、日本盤

が出るみたいですよ。

岸田:マジで。でもムチャいいですよ。ああいうのにオレ弱いんですよ。

瀬上:あれ、知ってます?ゲヴィンなんとかっていう……いや違う、カイルなんとか。

岸田:カイル・ミノグやなくて(笑)。

瀬上:カイルちゃんは大好きなんですけど(笑)。そうじゃなくて、カイルなんとかっていう人がすごくて。

岸田:じゃあ、帰りに買って行きますわ。

ディスク・レビュー



Erpland / OZRIC TENTACLES

このバンド狂ってます。何が狂ってるかと言うと全て狂ってます、テクニクとか曲の良さと時代性とか、これを両手を挙げてカッコエーと叫びひとはそんなにあられないと思いますが、ワタシ的にはちょっとでも親しい人には全員聴けと言ってます。基本的にピンクフロイド・カン、グルグルの音触りですが深層に見えるはEL&Pやイエス初期のテクニカル感にエジプトとか果てはドリームシアターのようなゲロ吐きそうなおさん臭さをチャリズムで感じつつ、今っぽいのは全編に流れるトータスあたりの感触やテクノ耳OKなプロダクション。でも、本人達は多分意図的なたぐらみはなさそう。我々くるりもこのバンドそっくりの曲を作って、ライブでも演ってるんですけど、そこで思うのは殆どのプログレ(ラッシュとかを除いて)は実はただのサイケデリックロックだったりで、実はかなりポップだったりダンサブルだったり音響派だったりするの、テクノやサイケやポストロック系が好きな人はこのバンドとかフロイドとかカン、ライあたりをチェキナしてみてもどうでしょう。(岸田)

The Soft Bulletin / THE FLAMING LIPS



久しぶりに僕の趣味全開で好きなアルバムです。フレーミングリップスって結構キャリア長くて、前作はコーネリアスもびっくりの4枚同時聴き作品やったりするんですけど、そんな偏屈な部分もすべてひくくめてこのアルバムは精神を揺らしてきますね。一聴した時はマーキュリーレヴの友達って感じやったんですけど、それっぽくサイケで、しかもグルーヴがスゴイロックなので、聴いててワクワクという幸せな気分になってくるんですけど。すごいたくさん音が入ってるんですけどメッチャポップで、全部の音がすべて聞こえてくる感じ。そしてすごい意味を持ってる。僕は聴いて、パストラルの音が心臓の音に聞こえたりしましたね。ほんですごくいい気分になって、久しぶりにこんなこと歌ってるなやろと思って歌詞カード見たら、本人は頭と脳に興味あるらしくてよくわからなかったりするんですけど、すごい感動的に思えました。とにかく幸せになれる音楽な気がします。(佐藤)

Live at Leeds / THE WHO



このアルバムはフーが1970年にリーズ大学で行ったライブの模様を収録したもんやねん。でも、こん時のライブではメンバーはかなりいっちゃってます。特にドラムのキース・ムーンとギターのピート・タウンゼント。キースとピートとの絡みはほんまに絶妙!!ライブならではの駆け引きというか、うん、そうきたか、ならばこっちはもっと行っちゃうぞ、みたいなね。もう、カッコいいっす! 熱いっす! 数あるライブ盤の中でもかなりオススメですね。もともとライブ・パフォーマンスなんかにも定評のある彼らやけど、こうやってライブ盤を聴いてるとほんま、CDから出てくる音から、やっているテンションがよけいにピンピン響いてくる。しかも彼らのスエグエグところは、これだけテンションが高いのに、スゲエ音楽的っていうか、おいしいところを心得てるっていうか。ほんまにカッコええよ。(森)

佐藤征史の「大学生日記」



どうもお久しぶりです。みなさん、いかがお過ごしでしょうか？ 現在、8月に入っぱかりな月ですけど、暑いんです。夏です。みなさん、夏は好きでしょうか？ 僕は、嫌いじゃありません。好きって言わないのは夜、暑くて眠れない時があるからです。でも今、初めて東京で夏を過ごしているんですけど、京都より夜が涼しいです。クーラーなくても眠れます。でも暑い。開めきったアパートの部屋に夕方帰ってくる時とかソツとしますね。今年で特に暑いらしいですよ。でも暑いのは夏だけなのでLet'sエンジョイって感じですよ。

さて夏「サマー」と言えば、やっぱり海でしょう。海に行くしかないでしょう。僕は大学の頃、サーフボードがなかったんですけど毎年日本海の久美浜とか小浜とか天橋立付近に遊びに行ってたんですよ。大学生で車の

免許とかあったし、ぶいに夜中に友達4人ぐらいで3時間ぐあいかけて小浜とか行ったら、夜中の2時頃やのに女の3人ぐらいで花火してて、なぜか友達になったり、なぜか男ばかりで夜中の海遊館に5回ほど行ったりもしました。もうサマーと海は切っても切れな1年なんです。そんな海の中で一番好きなのはシークレットスポットが久美浜にあるんですよ。久美浜って京都の市内から車飛ばして2時間半くらいなんですけど、その500mくらいの浜がある所に貸ボート屋さんがあって、まずボートを借りて、ボートで1Kmほど漕いでいった所に20mくらいの岩に囲まれた小さな浜があるんです。5000円ほど払ってボートを借りるだけで、そこはもうプライベートビーチでございませう。海水はきれいやし、小魚も糸と針とエサがあれば入れ食いやし、ムラサキやけどウニもいるし、大きな浜から結構離れてるからノーパンで泳いでもOKやし、もうパラダイスなスポットです。あー行きたい、みなさんも暇ならそんなスポットを探してみましょう。見つかるとうれしいですよ。それでは、あー髪切ってー。

モックんの「二度は言わんぞ!!」

久しぶり！ くりのどらむすこと森信行です。8月は北海道～九州まで日本各地を回るイベントツアーで大忙しの毎日です。そんなわけで今号でも皆さんの熱いご要望に応えて「日本全国うまいもん探しPart 2」をお届けしましょう。前号では四国、九州のうまいもんを紹介したので、今回はもうちょっと北の方を攻めてみようかな。

北海道.....もうちょっと北の方と言って、いきなり最北端ですが(笑)。北海道と言えば、ほんまにおいしいもんのお宝庫やね。そんな中で僕が忘れられへんのが、市場で食べたイクラ丼。丼ぶりの蓋を開けるとご飯が見えへんくらいイクラ、イクラ、イクラ!! イクラって油っぽいイメージがあるけど、新鮮なやつを食ったら考え変わるよ。あっさりというけどすごい上品な味。なんぼでも食べる気がしたもんね。それから空港でお土産で買った六花亭のバターサンドはうまかった。ただ、かなりカロリー高めて感じやけどね(笑)。そこがまたいいんですよ。

北陸地方.....この地方の人は活きのいい魚のことを「きときとの魚」って言うねんけど、その言葉通り、ほんまに魚がうまい!! 特に石川で食べた「がんぞ」っていう魚は最高やった。この魚は成長していったと名前が変わる出世魚、いわゆる「はまち」と呼ばれる前の段階がこの「がんぞ」っていう名前なんやあって、それから、新潟では日本酒が最高やった。「久保田」と「天狗舞」っていうお酒が、ほんまおいしかった。フルーティでワインに近い味しやったね。あと、駅で買った「コシヒカリアイス」。これはほんま、アイデアの勝利。アイスに入った米粒の甘さがバナナとまぐろみ合って、独特の食感を醸し出してる。よくぞ考えつきましたって感じがよ。まだまだ紹介したいもんはいっぱいあるんやけど、今回はこの辺で。またね。モックンでした。



岸田繁の「各停で行きましょう」

ご無沙汰しております、岸田です。

東京の皆さんはもうお気付きのことかと思いますが、世田谷線の新車。何あれ。アホちゃう。安物臭いビビカバのバスみたいな車体には何とサザエさんのイラストが.....

馬鹿野郎ー!! 電車で絵描くな、ボケ。

今後5ヶ年計画で、全部そのカッコ悪い電車に置き換える計画らしいです。

世田谷線と言えば、昭和10年代の半鋼製電車(床なん



で木!)がチョコチョコ走る最高にノスタルジックな路線。車内に乗り込めば木のニスの渋い香り、そして心地良い振動、冷房などもろろんな

いので開放した窓からさわやかなそよ風が扇風機の風に混ざって涼感満点ときたものだ。

冷房車、安物車、ステンレスカーが当たり前となった今日、こんな電車は地方私鉄にも残り少ないのだ。東急はこんな時世にボコ鉄を修理しつつ現役で走らせているのは本当に立派だと思っていたものです。もちろん時代の流れは仕方ないのですが、せめてもう一工夫すべきでしょう。あれはマズすぎる、本当にマズすぎる。

雨の日やラッシュ時はともかく、電車に冷房は必要ないと思うんですけど。窓開けて、扇風機(ファンデリアもね♡)廻しとけば、心地良い涼感を得られるはず.....。あと床とか窓枠とか、木の暖かみが残る電車やバスが絶滅しかかっているのが非常に残念。残り数年.....とりえす頑張り、世田谷線70型、80型、150型!! そしてあんなもん作んな300計型!!

読者の穴

宛先: 東京都渋谷区宮ヶ谷4-143-2 EDIH宮ヶ谷5F
株式会社パッドニュース くすり新聞「ミンチー」読者の穴

読者からの素朴な疑問に答えるこのコーナー。お陰様で質問もジャンジャン来てます。おまけにその質問にもいろいろ創意工夫が見られておもしろいです。今回はその中から4名が採用。

●くりの御三方が自分で自分に「イカス」「最高じい!!」しびれるの.....」と思ふ瞬間があったら教えてください。(福岡市 ランバダ(株))

岸田:道路のミラにいななに映る時、流し目をする。

佐藤:目覚まし時計の鳴る1分前くらいに起きた時。

森:生たまご割って黄身が双子やった時。

●もし自分の家で動物を飼うとしたらどんな動物にしますか？

そして名前は何と付けますか？(福岡県宗像郡 森誠子)

岸田:今度こそはキンカジュウヤコウネコアカオキノリヘビを飼いたい。名前はミーニャン。

佐藤:犬。名前はフローレンス。オ太郎。

森:まめしば(柴犬)で名前はダニエル(呼ぶ時はダニー)。

●朝にいつも入ってる必需品を教えてください。(札幌市 岡崎安紀 16歳)

岸田:ゴミと紙くず。ディスクマン。

佐藤:ディスクマンとMDウォークマンと保険証と免許証。

森:鼻血カッター。

●キン肉マンで好きなキャラクターは誰ですか？ ちなみに私はモンゴルマンです。ラーメンマンそのものに誰も負けないバカらしさ。ゆでたまご最高!!(札幌市 松浦潤 20歳)

岸田:ミスター・カーメンですね。やっぱり血吸う所が好き。あと、アモイマン(モアイマン?)。ニセ・ロビンマスクになった所がたまけ。

佐藤:シカバブー。

森:パッと思い付いたのはペンギンかな。カレークックいうのもあったね。

イベント

●今回はなんとと言ってもコレ。今年はフジロックに出ました。ニューカマーステージという会場外れの小さなステージながら、たくさんのお客さんが集まって来てくれて、くりの3人も大喜びでした。この日は超絶絶的なフジロック用ステージで持ち時間の45分に対して、4曲のみ、新曲の「インスト」から「東京」のロングバージョン、「ガロウ」。そして「尼崎の魚」のスローバージョンへ。会場も大盛り上がりでダイブをする客も出ました。●フジロックの会場は常に募集しています。が、まだ入っていない方はお早めに。入るといいことたくさん。入会内書を希望の方は80円切手を同封の上、以下の住所までお送りください。〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-13-5 MST渋谷3F(株)パッドニュース内くすりファンクラブ 入会案内書希望係

